

# グリーンボンド / グリーンボンド・プログラム 外部レビューフォーム

## セクション 1. 基本情報

発行体名:	小田急電鉄株式会社
グリーンボンド又はフレームワークの名称:	第 82 回普通社債
外部レビュー者名:	株式会社 日本格付研究所
本フォーム記入日:	2019 年 1 月 7 日
レビュー公表日:	2019 年 1 月 7 日

## セクション 2. レビューの概要

### レビュー対象

本レビューでは、以下の要素について審査し、グリーンボンド原則との適合性を確認した。:

- |  |  |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定プロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング          |

### ROLE(S) OF Independent External REVIEW PROVIDER

- |                                    |  |
|------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> セカンドオピニオン | <input type="checkbox"/> 認証                    |
| <input type="checkbox"/> 検証        | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/格付け |
| <input type="checkbox"/> その他:      |  |

注: 複数のレビュー、異なる提供者がいる場合、レビューごとに個別のレビューフォームを提供してください。

## レビューのサマリー 及び 評価レポート全文への URL リンク

小田急電鉄株式会社（小田急）は、1923年5月に小田原急行電鉄株式会社として創立された大手民鉄会社。戦中期に東京急行電鉄と合併するが、1948年6月に分離・独立し現在の小田急電鉄株式会社として発足した。小田急は、西東京エリアから神奈川方面を事業エリアとして、運輸業、流通業等幅広い事業活動を行っており、そのうち中核となる鉄道事業では、自社路線として小田原線（新宿～小田原）、江ノ島線（相模大野～片瀬江ノ島）、多摩線（新百合ヶ丘～唐木田）の3路線、計120.5kmを有し、利用客数は1日約207万人に上る。また、利便性向上のため、東京メトロ千代田線、JR東日本常磐線（緩行）、箱根登山鉄道及びJR御殿場線にも乗り入れている。

小田急を中心とする企業グループである小田急グループには2018年8月現在で99社が属している。小田急グループではCSR（企業の社会的責任）活動を行ううえで、取り組みの方向性として3層の活動領域と3つの重点分野を定めており、環境に関する点では、3つの重点分野内に、「環境に配慮した取り組みの推進」を掲げている。「小田急グループ環境戦略」、「環境負荷の低減」、「自然との共生への取り組み」及び「小田急環境ルームの開設」などの具体的取り組みにより、事業活動に伴う環境負荷の低減を積極的に推進することや、地域社会の住民とともに箱根、江ノ島や丹沢・大山といった沿線各地の自然保護など各種取り組みが行われている。

そのうち2008年10月に制定された「小田急グループ環境戦略」については、小田急グループ一丸となって環境負荷に対する規制等の強化や環境に対する意識の高まりなど社会の変化に適合していくことを目指し、2010年度から実施している。加えて、全社で環境マネジメントシステムを運用して環境活動の推進に努めているほか、相模大野駅近くにある大野総合車両所では、2000年度に環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得しているなど、環境に配慮した事業活動を行っている。

今般の評価対象となる債券は、小田急が発行する普通社債である。本債券の発行代わり金は、旧型の車両と比較して消費電力の削減効果が見込まれる車両の新造ならびに既存車両の改良に関する資金、線路の複々線化に関する資金及び駅舎や駅舎内の施設の改修に関する資金に充当される予定である。

小田急グループでは、既述の通り、CSR活動の3つの重点分野の1つである「環境に配慮した取り組みの推進」を実施するにあたり、環境面においてグループの方向性を示した「小田急グループ環境戦略」を作成している。小田急では、上記「環境に配慮した取り組みの推進」に貢献するアクションをグリーンボンドの適格クライテリアとして定めており、今回のグリーンボンドの資金使途は上記適格クライテリアに合致すると判断している。

小田急では、今回のグリーンボンドプロジェクト選定に当たり、取締役社長を決裁者とする稟議が行われるなど、グリーンボンド発行に関して経営陣による強いコミットメントが行われているほか、今回の資金使途が与えうる環境リスクならびに社会的リスクに関して、条例に基づく環境アセスメント手続きの実施及び各種法令の遵守（コンプライアンス）により、リスクに対する対策を行っている。また、調達資金の内部監査は年2回行われており、財務責任者が承認する形をとっている等、資金管理に関する管理体制は確保されている。

このように、JCRでは小田急によるグリーンボンドプロジェクトの選定プロセスをはじめとする管理運営体制及び透明性を確認し、今回小田急が発行する普通社債の管理運営体制及び透明性は強くかつ高いと評価した。

以上より、今般評価対象の普通社債について、JCRグリーンボンド評価手法に基づき「グリーン性評価（資金使途）」の予備評価を“g1”、「管理・運営体制及び透明性評価」の予備評価を“m1”とした。この結果、「JCRグリーンボンド予備評価」を“Green1”とした。また、本債券は、グリーンボンド原則及び環境省によるグリーンボンドガイドラインにおいて求められる項目について基準を満

たしていると考えられる。

評価レポート全文への URL リンクは以下をご参照。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

## セクション 3. レビューの詳細

レビュー者は、できる限り以下の情報を、コメントの枠を使用し、できる限り提供することが推奨される。

### 1. 資金使途

#### 本項目に係るコメント欄:

##### a. プロジェクトの環境改善効果について

- i. 資金使途の 100%が、クリーンな輸送事業へのリファイナンス及び新規投資であり、環境改善効果が高い。
- ii. 資金使途は、グリーンボンド原則または環境省のグリーンボンドガイドラインに定義されているグリーンプロジェクトのうち、「クリーン輸送」及び「クリーンな運輸に関する事業」に該当する。

##### b. 環境に対する負の影響について

小田急では、プロジェクトを行う際には、環境リスク及び社会的リスクの検討を行い、環境に対して負の影響が発生するリスクがある場合は、リスクに対する緩和策を講じている。したがって、本債券による調達資金が充当される見込みのプロジェクトによる環境に対する負の影響の蓋然性は小さいと確認している。

#### GBP における資金使途の分類:

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 再生可能エネルギー   | <input type="checkbox"/> エネルギー効率                |
| <input type="checkbox"/> 汚染防止及び管理  | <input type="checkbox"/> 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理 |
| <input type="checkbox"/> 陸上及び水生生物の多様性の保全   | <input checked="" type="checkbox"/> クリーン輸送      |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源および廃水管理   | <input type="checkbox"/> 気候変動への対応               |
| <input type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス  | <input type="checkbox"/> グリーンビルディング             |
| <input type="checkbox"/> 発行時点では明らかでなかったが、現時点において GBP 分類に該当することが予想される、または、まだ GBP 分類に含まれていないが適格グリーンプロジェクト分野と思われるもの | <input type="checkbox"/> その他                    |

GBP 以外のタクソノミー(プロジェクト分類)を使用している場合はそれを特定すること。:

### 2. プロジェクトの評価と選定プロセス

#### 本項目に係るコメント欄:

小田急は、資金使途について、明確な環境面での目標、プロジェクトの選定基準およびプロセスを定めている。

当該事項は、本評価レポートの中で開示されている。

### 評価と選定

- |   |   |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体の環境面での持続可能性に係る目標が定められている                 | <input checked="" type="checkbox"/> 対象事業が選定基準分類に適合していることを決定するプロセスが文書化されている      |
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの資金用途としての適格プロジェクト基準が定義され、透明性が確保されている | <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施に伴う ESG リスクの可能性が特定され、管理されるプロセスが文書化されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> 事業の評価と選定基準の概要が公表されている                       | <input type="checkbox"/> その他  |

## 責任及びアカウンタビリティに係る情報

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 評価・選定基準は外部からのアドバイスまたは検証を受けている | <input checked="" type="checkbox"/> 社内で評価している |
| <input type="checkbox"/> その他                           |   |

## 3. 調達資金の管理

### 本項目に係るコメント欄:

本社債による調達資金は、調達後約 2 年間で 3 件のプロジェクトのリファイナンス及び新規投資に充当される予定である。調達資金が充当されるまでの間は、調達資金は現金または現金同等物で管理されるほか、プロジェクトの中止などにより未充当資金が発生した場合にも、新たに適格クライテリアに該当するプロジェクトに充当されるまで、調達資金は現金または現金同等物にて管理されることを確認している。

### 調達資金の追跡管理:

- グリーンボンドの調達資金は分別管理され、または適切な方法で発行体によって追跡管理されている。
- 未充当資金の一時的運用方法について、開示されている。
- その他

### 追加開示事項:

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 新規投資への充当のみ           | <input checked="" type="checkbox"/> 既存・新規投資両方への充当 |
| <input type="checkbox"/> 個別の支出に充当             | <input type="checkbox"/> ポートフォリオベースの支出に充当         |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオバランスを開示 | <input type="checkbox"/> その他<br>既存投資への充当のみ        |

## 4. レポーティング

### 本項目に係るコメント欄:

#### a. 資金の充当状況に係るレポーティング

約 2 年間で 3 件のプロジェクトのリファイナンス及び新規投資に充当される。上記資金用途は、債券の発行時に訂正発行登録書、ニュースリリースに加え、ポスターやリーフレットとして駅構内や車両内の掲出スペースに貼り出される予定である。

#### b. 環境改善効果に係るレポーティング

対象となる 3 件のプロジェクトのリスト及び概要等は、本レポートの評価フェーズ 1 の資金用途一覧に示している。小田急は自社ウェブサイトにて、以下の環境改善等を示す指標を、年次で開示していく予定である。

### 資金使途のレポートニング:

- 個別プロジェクト・ベース  
 個別債券への紐づけ
- プロジェクトのポートフォリオ・ベース  
 その他

### レポートニング情報:

- 充当金額  
 その他:
- 総投資額に占めるグリーンボンドによる資金  
充当の割合

### 頻度:

- 年に一度  
 その他:
- 半年に一度

### インパクトレポートニング:

- 個別プロジェクト・ベース  
 個別債券への紐づけ
- プロジェクトのポートフォリオ・ベース  
 その他

### 頻度:

- 年に一度  
 その他
- 半年に一度

### レポートニング情報（理論値または実績値）:

- GHG 排出量 / 削減量  
 水使用削減量
- エネルギー削減量  
 その他 ESG 指標
- ・騒音・振動の低減度合い  
(防音車輪・全密閉式主電動機・低騒音型コンプレッサー・滑走防止制御装置の各導入率)
  - ・平均遅延時間・回数の改善状況
  - ・平均混雑率の改善状況
  - ・所要時間の短縮効果
  - ・ホーム延伸工事進捗状況
  - ・ホームドア設置工事進捗状況
  - ・駅舎及び駅周辺緑化状況

### 開示方法

- 財務諸表における公表  
 アドホック（非定期）刊行物における公表
- サステナビリティレポートにおける公表  
 その他:  
ウェブサイトにおける公表
- レポートニングの外部レビュー  
資金充当状況及びインパクトレポートニングが外部レビュー対象

### 有用なリンク

小田急グループの環境への配慮 [https://www.odakyu.jp/company/socialactivities/environment\\_consideration/](https://www.odakyu.jp/company/socialactivities/environment_consideration/)

**外部レビューを受けた場合、その種類**

セカンド・オピニオン

認証

検証

スコアリング/格付け

その他

**レビュー提供者: 株式会社 日本格付研究所**

**公表日: 2019 年 1 月 7 日**

## グリーンボンド原則に定められた、独立レビュー業者の役割

1. **セカンド・パーティ・オピニオン**：環境に関する専門知識を持ち、発行体から独立した機関は、セカンド・パーティ・オピニオンを出すことができる。そのような機関は、グリーンボンドフレームワークに関する発行体のアドバイザーからの独立性や、情報障壁など適切な手順を機関内に設け、セカンド・パーティ・オピニオンの独立性を保証することが必要である。セカンド・パーティ・オピニオンは通常グリーンボンド原則への準拠に関する評価を伴い、特に、発行体の包括的な目標、戦略、環境に関する持続可能性に関する方針および（または）プロセスおよび資金使途となるプロジェクトの環境に関する持続可能性の評価が含まれる。
2. **検証**：発行体は、ビジネスプロセスに関するおよび（または）環境基準についての設定された基準に関する第三者検証を受けることができる。検証は内部または外部基準または発行体による目標に沿っているかにフォーカスする。また、対象資産の環境に関する持続可能な特徴の評価は“検証”と呼ばれ、外部基準を参照することができる。発行体の資金管理、グリーンボンドによる調達資金の配分に関する内部追跡システム、環境へのインパクトまたは、グリーンボンド原則への準拠に関する保証または証明も“検証”と呼ぶことができる。
3. **認証**：発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、認識されている外部グリーン標準・ラベルの認証を受けることができる。標準またはラベルは、特定の基準を定義し、その定義は認証基準に沿っているかを証明できる能力を有し、認定された第三者機関によって、その基準に沿っているかどうかを検査される。
4. **グリーンボンドスコアリング・レーティング**：発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、スコアリング・レーティング手法を有している専門調査会社や格付機関といった第三者によって評価もしくは調査されることができる。成果物は、環境改善のデータ、グリーンボンド原則に準じたプロセスまたはその他 2 度目標などのベンチマークにフォーカスしたものが考えられる。スコアリング・レーティングは、重要な環境リスクを反映しているとしても信用格付とは明確に異なる。